

公開講座「言語」2005 プログラム

主催：愛知大学言語学談話会

共催：愛知大学語学教育研究室・愛知大学同友会

場所：愛知大学車道校舎 461-8641 名古屋市東区筒井 2-10-31 TEL: 052-937-8111 (地下鉄桜通線「車道」下車, 1番出口より徒歩1分)

時間：14:30～16:30

聴講無料

公開講座「言語」30周年記念講演会

2005年7月9日(土) 車道校舎本館1005教室(予定)

「マイケル・トマセロと言語研究 ―21世紀の言語学は何を目指すのか―

伊藤 忠夫 (中京大学教養部教授)

<後期> 車道校舎本館1003教室 (予定)

2005年

(5) 9月17日(土)

「フランス語初級学習者の弱点について」

田川 光照 (愛知大学経営学部教授)

(6) 10月1日(土)

「身体性から見る日本語文法 ―時制形式の意味機能―

山本 雅子 (愛知大学国際コミュニケーション学部助教授)

(7) 11月5日(土)

「ウェブスター辞書の伝統」

早川 勇 (愛知大学経済学部教授)

(8) 12月3日(土)

「エッセーの言語 ―モンテニユを読む―

高橋 秀雄 (愛知大学文学部教授)

2006年

(9) 1月7日(土)

「日・中・韓の言語教学雑感」

陶山 信男 (愛知大学名誉教授)

編集後記

友人がヘブライ語を勉強中である。と言っても旧約聖書を研究するためではなく、ただ単にヘブライ語を学習することそれ自身が目的なのだそう。彼女の本職は理科教師。大学時代には理学部で応用化学を専攻し、ドイツ語とロシア語を選択した。その後イタリア語を独学で身につけ、現在はイタリア人とインターネット上で交流したりもしている。英語とラテン語もそれなりに出来る。彼女の場合、資格取得や実益とは一切無縁のところ、これだけの外国語を学んで身につけている点が目玉に値する。

今号の表紙の写真と解説文は一年間の牛津留学から帰国した多田先生の提供による。このBiburyは詩人・工芸デザイナーとして名高いウィリアム・モリスが「英国で最も美しい村」と呼んだ。(S.A.)